

詳徳スタイルを活用した学力向上の取組 －アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善－

亀岡市立詳徳小学校

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

1 教科に関する調査

国語A・Bともに、全ての観点で全国平均と同じ程度か上回る結果であった。昨年度と比べると国語Aでは書く能力、国語Bでは読む能力の伸びが見られた。

算数A・Bとも全ての観点で全国平均を上回る結果であった。特に昨年度と比べると数量や図形についての技能に伸びが見られた。問題形式別では、算数Bにおける記述式の解答で正答率が大きく伸びた。基礎・基本の力が確実に定着しているだけでなく、活用する力や自分の考えを説明・表現する力が伸びている。

2 質問紙調査

「家で授業の予習・復習をする」や「教科書を使って学習する」といった家庭学習習慣が身に付いてきている結果が見られる。また、「学校に行くのが楽しい・友達に会うのが楽しい・好きな授業がある・先生は分かるまで教えてくれる」の項目はほぼ全員が肯定的な回答をしており、意欲的に学校生活を送るための土台が整っていることが分かる。さらに「国語や算数の勉強は大切である・将来社会で役に立つと思う」「解き方や考え方が分かるようにノートを書いている」でも同様の結果であり、前向きに学習しようという姿勢が見られる。

全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

授業における取組

1 実践の目的

普段の授業の様子からは、新たな学習課題に対して意欲的に取り組んだり、友達どうしで学びを深め合ったことを自分の言葉で表現したりする力に弱さが見られる。また、各種の学力調査において全体の平均を大きく下回る児童も見られたり、与えられた家庭学習には取り組めるが、自ら考えて学習する内容については個人差が大きかったりする。これらの課題解決のために授業改善に取り組んでいる。

2 「より分かる授業」・「学び合う授業」・「学び続ける授業」を目指した授業改善

(1) 『詳徳スタイル』にアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた算数科の実践

算数科を中心に授業研究を進めている。単元を通して[A]・[B]・[C]・[D]…の学習過程が連続し、1時間ごとの学習を予習や復習でつなぐことにより、児童が見通しをもって自ら進んで学び続ける工夫をしている。また、45分で学習のねらいを達成することも目指している。

[A]つなげる学習…学年に応じて児童が自主的に授業につながる予習や復習に取り組めるように学び方を習得させ、目的意識を持って授業に臨める工夫をする。

[B]とらえる学習…「めあて」の提示を必ず行い、主

詳徳スタイル2016



1時間(45分)=BCD

連続する4つの学習過程で1時間ごとの学習をつなげる

- A... つなげる学習 <やってみる> 児童の自主的な学習
[本時に必要な学習内容の復習や予習]
- B... とらえる学習 <自分で考える・方法を知る> めあての提示も必ずする
- C... 深める学習 <考えを伝え合い、みんなで学び、深める>
- D... まとめる学習 <まとめる・ふりかえる>

体的に取り組む意欲を高める課題提示や問題把握に必要な投げかけの工夫をする。ノート指導やワークシートの活用により、自分の考えを書くことを大切にしている。

C深める学習…児童が主体的・対話的に学ぶためにペアやグループでの学習や言葉を大切にしていわかりやすく表現する言語活動を取り入れ、学び合う工夫をする。

Dまとめる学習…学んだことを自分の言葉でまとめたり、めあてに沿った「ふりかえり」を書いたりすることで確実に理解できるように工夫する。

(2) 算数科から理科へつなげる実践

算数科を中心に進めてきた『詳徳スタイル』の研究を理科にもつなげている。既習内容を活用してグループの友達と話し合い、さらに全体で考えを深め合いながら問題を解決していく学習である。算数科で身に付けた主体的に学ぶ力を理科でも生かし、対話的に学ぶ活動を取り入れることによってねらいを達成できるよう授業改善に取り組んでいる。

3 児童や教師の変容

算数アンケート（各学期末に実施）の結果からは、多くの児童が「算数の授業が楽しい」、そのわけは「よくわかる」「たくさん意見が言える」などと答えており、「2、3人のグループの友達と話し合うことは大切だ」と考えている児童がほぼ全員である。「友達に自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしているか」の質問には「絵や図・式をかいて説明する」「友達の見聞を聞いて説明する」と自らの考えを広げ深めることの大切さを感じている児童が増えている。

また、教師にとっても「詳徳スタイル」の導入により、単元全体を見通して1時間ごとのねらいを明確にした授業づくりが進み、学力実態に合わせた授業改善を意識できるようになってきた。

授業以外の取組

1 全校計算大会

放送の合図で全校一斉に簡単な四則計算に取り組んでいる（各学期8回程度）。基礎・基本の定着と集中力を高めることをねらいとしている。満点者は名前を掲示するので達成感を味わう児童も多く、励みになっている。

2 トライアル学習

各学期2週間程度、家庭学習の習慣化と内容の充実を目指して取り組んでいる。学年ごとのトライアルカードを持ち、目標設定を学期末の国語・算数大会の点数アップとして、達成できるようにしている。担任は自主学習の内容を確認し、毎日シールを貼ることで学習意欲を高めさせている。また、家庭学習のしおり「学びの手引き（低・中・高別）」は4月の家庭訪問時に保護者へ渡して説明し、家庭の協力を得られるように工夫している。6年生へは1学期に中学校の先生から、中学校進学に向けて家庭での自主学習の大切さを話してもらった取組を続けている。

3 ノート祭り

学期末には教室前の廊下に自分の一番工夫できたページを開けたノートを並べ、互いに見て学び合えるようにしている。付箋に友達のノートの良い点を書いて貼ることや3学期には中学校から提供してもらったノートも展示することによって、さらによりよいノートを目指せる工夫をしている。

必要な時、黒板に提示する

ふりかえりの書き方(低学年用)

- ①めあてにそって
- ②はじめて学しゅうしたことを
- ③わかった(わからなかった)ことを
- ④まえの学しゅうどちがったところを
- ⑤ともだちのかんがえについて
(名まえも入れて)
- ⑥きょうのキーワードを入れて
- ⑦もっとしりたいこと、やりたいこと
どんな学しゅうをしたか つたわるように

教室掲示している

